

事務事業評価シート

H27(標準事業)

①基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	19132-1	子育て学習展開事業	室名	生涯学習室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計 一般会計
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	務	款 教育費
	施策の方向	04:家庭・地域の教育力の向上	科	項 社会教育費
戦略プロジェクト		目	目 社会教育総務費	

②目的・概要	対象	就学前を中心とした児童の保護者
	目的	市内の保育園、幼稚園、小中学校の保護者に対し、子どもの基本的な生活習慣と自己肯定感の確立を軸とした家庭教育の意識を高めることを目的とする。
概要		市内の保育園、幼稚園、小中学校の保護者に対し、家庭教育に関する講演会を開催するとともに、リーフレット及びパンフレットを作成し配布する。また、学力向上推進計画に基づき、テレビ・ゲーム・情報機器の使用時間短縮などの働きかけを行う。

		27年度	28年度
①	名称	幼稚園・保育園等での講演会の開催回数	計画値
	補足	市内保育園、幼稚園などにおいて、保護者向け講演会を開催する。	実績値 17 単位 回
②	名称	小中学校での講演会の開催回数	計画値
	補足	小中学校等において、保護者向け講演会を開催する。	実績値 3 単位 回
③	名称	講演会への参加人数	計画値
	補足	幼稚園・保育園、小中学校等での講演会に参加した保護者の人数	実績値 941 単位 人
④	名称		計画値
	補足		実績値 単位

年度計画				年度実績			
④事業の計画・実績	事業費				現状の家庭にみられる問題に即した内容に厳選した5つの講演を、園長会などの機会をとらえて積極的なPRを行い、最終で20園中17園で実施することができた。また、現場のニーズに即した内容を講演に反映させたほか、従来の「子育てマイブック」、「パパママ読んで」のほかに、「家族交換日記」「家庭約束手帳」、「朝ごはんバランスシート」を作成配布し、講座とあわせて活用した。スマートフォンやゲーム機に対しての取り組みについては「教育を語り合う会」や市広報によって課題の共有を図った。		
		計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	5,309	
	事業費		1,248	1,011	一般職員人件費 ②	5,309	平均給与額×③
	国庫支出金				所要人員 ③	0.70	
	県支出金				臨時職員人件費 ④		
	地方債				受益者負担額 ⑤		
	その他				受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
	一般財源		1,248	1,011			
	再掲	翌年度への繰越額					
		前年度からの繰越額					
	総人件費		①	5,309			
	総コスト		⑥	6,320			

⑤事業の評価	【事業の成果】	幼稚園・保育所を対象に5つのテーマでメニュー化し、すべての幼稚園(6園)と保育所(11園)17回の出前教室開催により家庭教育の重要性についての機会をもうけることができた。また、講座開催時には、室から保護者に対し、直接家庭教育への働きかけを行った。また、2か年の取組成果を生かし、家族との絆の中で基本的な生活習慣や自己肯定感を高めるワークシートを新たに作成し、本事業の意義を保護者へ浸透させることができた。なお、これまでの取り組みについて、平成27年度社会教育主事講習において全国的な先進事例として発表を行った。	総合判定 A 順調に進んだ
	【反省点・課題】	文部科学省の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」が廃止となったため、今後は市独自の取り組みとして持続的展開を図っていく必要がある。同時にスマートフォンやゲーム機に対しての取り組みや関心の薄い保護者への働きかけについて、家庭だけではなく、地域の課題としてどのように展開していくのか整理する必要がある。	
	【改善の方向性】	第2次総合計画や生涯学習計画の策定に合わせて、施策的な位置付けを行い、長期的なビジョンのもとでの展開を図る。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 生涯学習室長 亀山 隆